

【 機械科 】

1. 教育目標（学習指導要領）

工業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、現代社会における工業の意義や役割を理解させるとともに、環境に配慮しつつ、工業技術の諸問題を主体的、合理的に解決し、社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てる。

2. 本校における機械科教育の目標

北部地域唯一の工業高校という特色を踏まえて、機械科では各種機械に関する基礎的・基本的な知識や技術の習得を第一に重視しつつ、新しい情報化社会のニーズにも応えるべく情報教育や機械制御等の最先端技術にも力を入れている。そして、各種資格・検定の取得と合わせて、将来の「スペシャリスト」の育成に目標としている。

3. 教科書名と補助教材

教科書・補助教材	出版社	使用学年	備考
工業数理基礎	実教出版	1 学年	
工業技術基礎	〃	〃	
機械製図	〃	〃	
機械工作 1	〃	〃	
情報技術基礎	オーム社	〃	
機械設計	実教出版	2 学年	
生産システム	コロナ社	〃	
原動機	実教出版	3 学年	
自動車工学	〃	〃	
新機械工作 1 演習ノート	実教出版	1 学年	
計算技術検定演習 4 級	令文社	〃	
乙 4 類危険物取扱者受験教科書	向学院	〃	
3 級情報技術検定試験演習問題集	コロナ社	〃	
機械製図練習ノート	実教出版	3 学年	
Word & Excel2000	〃	〃	
2 級ボイラー技士受験教科書	向学院	〃	

5. 評価の方法

① 座学中心の科目

各教科の評価は1、2学期が100点法（素点）、3学期が5段階評価で出される。評価の対象としては、定期考査（中間考査・期末考査・学年末考査）、臨時考査（小テスト・資格試験）、提出物（実習・製図による課題提出・ノート提出・プリント提出）、出席状況や授業態度等を総合的に判断して評価を出します。

定期テスト	60%	提出物	30%	出席状況	10%
-------	-----	-----	-----	------	-----

② 実習を伴う科目

各教科の評価は、製図等においては各単元毎の提出物を中心に評価し、実習においては4タームに分けて各ターム毎の提出物によって評価をおこなう。出席状況や授業態度も評価の重要な判断材料となってきます。

提出物	60%	授業態度	30%	出席状況	10%
-----	-----	------	-----	------	-----

6. 機械教科の学習方法

- ① 教科書、ノート、筆記用具を持って授業に参加する。
- ② 基礎的な数学・物理は事前に学習しておく。
- ③ 資格検定に伴う授業は、放課後の補習も併用しておこない、検定の結果も評価の対象とする。
- ④ 定期考査は1学期2回、2学期2回、3学期1回おこなう。
- ⑤ 実習を伴う科目は、専門用語を学習し、早く機械の操作に慣れておくこと。

7. 授業への臨み方

- ① 授業中のおしゃべり、居眠りは慎むこと。
- ② 授業中には携帯電話の電源を切っておくこと。
- ③ 実習時には実習服を着用し、忘れた場合は取りに帰る。
- ④ 実習時は危険が伴うのでケガに注意し、授業に集中出来るよう前日にはしっかりと睡眠をとっておく。

9. 課外講座（資格検定講座を含む）

- ① 各学期末には、実習の補習講座をおこなう。
- ② 危険物試験講座（6月、11月、2月）
- ③ 計算技術検定講座（6月、10月）
- ④ ガス・アーク溶接講習（7月）
- ⑤ 情報処理検定講座（1月）
- ⑥ ボイラー試験講座（2、3月）